

- (5) 講習会：廃棄物・バイオマス・発電の最前線：2010年1月22日（金）日本機械学会会議室、参加者：37人
- (6) 特別講演会：第7回大気圧プラズマ流による人間環境保全技術に関する講演会：2009年12月22日（火）東北大学流体科学研究所、参加者：38人

8. 研究会、分科会

- A-TS 09-02 N E E 研究会（主査：近藤明氏）
- A-TS 09-03 エネルギー有効利用技術の将来動向研究会（主査：秋澤淳氏）
- A-TS 09-04 音・振動最適化技術と新しい評価法研究会（主査：川島豪氏）
- P-SCD 360 大気圧プラズマ流による人間環境保全技術に関する研究分科会（主査：佐藤岳彦氏）

部門賞 受賞者の紹介



環境工学部門功績賞を受賞して

竹内 正雄
 (独)産業技術総合研究所
 エネルギー技術研究部門

この度は大変栄誉ある環境工学部門功績賞（2009年度）を賜り、身に余る光栄でございます。しかも、部門初の沖縄でのシンポジウムにおける受賞であり、ミス沖縄から花束まで頂戴して、二重三重の喜びでありました。

考えてみれば、長く川崎で続いたシンポジウムを、外に出した言い出しっぺは私です。それも自分では実

行せずに次期部門長に押しつけた、たちの悪い言い出しっぺでありましたが、結果として沖縄まで出張できて感慨深いものがありました。

今更言うまでも無いことですが、これからの我が国の経済は、アジアなど新興国に向けて発展していかなければなりません。多くの国にたくさんの工場や店舗を作ることでしょうし、人と物の行き来はさらに増えることでしょう。願わくば、日本との交流があったから環境が良くなったと後で言われるようにしてほしいものです。そのためにも環境工学部門の一層の活躍を念じてやみません。

関係各位の益々のご発展、ご活躍を祈念して、受賞の御礼に代えたいと思います。



環境工学部門国際交流賞を授かって

丸田 芳幸
 (株)荏原製作所

この度、環境工学部門国際交流賞（2009年度）を授かったことを、心から御礼致します。授賞理由は、「2006年度に創刊した英文ジャーナル“Journal of Environment and Engineering”の編修において、準備委員会時点から委員長を務め、編修委員会が発足後も委員長として、技術論文投稿の推薦、啓蒙に努めると共に、査読期間の短縮、投稿規定の改革にも尽力され、JEEの発行を軌道に乗せた」、とのこと。実際に部門としての国際交流を実現していないので気恥

ずかしいのですが、既に海外からの投稿論文8件を掲載し、国際交流を開始するキッカケを作ったことが、賞を受けるに値したと思っております。しかし、この成果は私一人の力ではなく、共に活動していただいた編修委員各位の総力の結果です。改めて、編修委員各位に感謝を致します。当部門は基盤研究分野ではないので部門登録を1位で行う会員は少ないのですが、分野横断型部門として環境工学・環境科学に関連する幅広い分野の研究者・技術者から数多くの英文論文を投稿していただき、環境工学の観点から校閲して掲載公開しております。また、産業界からの投稿論文も多い英文ジャーナルとして存在感を示しておりますので、会員各位からの投稿をお待ちしております。結びとして、授賞式でミス沖縄から花束を手渡されたことは、感涙の思い出となりました。誠に有難うございます。